

住友商事グループの持続的成長に向けて

2019年5月16日
代表取締役 社長執行役員 CEO
兵頭 誠之

 Sumitomo Corporation

皆様、こんにちは。

本日はお忙しい中、住友商事インベスターズデー2019にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。私、冒頭、10分間、少々お時間をいただきまして簡単なメッセージを申し上げたいと思います。

実は住友商事、1949年に東京、大阪、名古屋に上場を果たしてから今日に至るまで、株主の皆様、ステークホルダーの皆さんにご支援いただきながら1919年、後ほど簡単にご紹介しますが、あっという間に100年がたちまして、100周年を迎えるというところまでやってまいりました。これもひとえに皆様のご支援あってのことでございます。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

今日は、住友商事についてもう一步深くご理解いただく、われわれ、努力をしていろいろ準備をしました。

また、皆様からご意見を頂戴しながら、今後の新しい100年を一步一步、歩みながらまたつくっていくと。これに大きな糧として、きょう、皆様からもいろんなことを学んで生かしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

1919 大阪北港設立

1952 商事事業に進出

1979 営業部門制の導入

1990年 後半 経営理念・行動指針の策定
銅地金不正取引事件

2000年~ グローバル連結経営の深化

2019 創立100年

次なる100年にむけて

幼いトド社会課題

- 人口増加
- 格差社会
- 都市化
- 少子高齢化
- 気候変動
- AI・IoT

経営理念

企業使命
健全な事業活動を通じて豊かさや夢を実現する。

経営姿勢
人間尊重を基本とし、信用を重んじ確実を旨とする。

企業文化
活気に溢れ、革新を生み出す企業風土を醸成する。

住友の事業精神 「信用・確実」「浮利を追わず」「自利利他公私一如」「進取の精神」

Sumitomo Corporation

1

100th ANNIVERSARY SINCE 1919

細かい話になる前にちょっと昔の話をさせてください。

今、私、申しあげましたとおり、私どもの会社の活動は1919年、第1次大戦が終了した年ですけれども、これにさかのぼります。当時、住友系のビジネスですね。住友ファミリーのビジネスとして別子銅山から産出する銅を精錬して、住友が400年の歴史の中でやってきたことを、その当時、日本が欧化政策、あるいは富国強兵政策の下、産業を近代化するんだということで、住友のビジネスも大きく拡大を果たそうと努力をする中で、その当時の住友の多くのビジネス、その当時からも高炉、鉄の生産もやっていましたけども、そこで必要とされる建築を手掛ける部隊が大阪にございました。その一つのセクションが、大阪北港株式会社ということで独立いたしまして、主に大阪の北港周辺の不動産の開発、これを担う組織として立ち上がったのがオリジンでございます。

その後、あっという間に時間がたつわけですけども、皆さん、ご存じのとおり第2次世界大戦がございまして、そのときに日本が敗戦を迎え、住友を含めた当時の財閥、これが解体をされると。その中で住友商事も解体しまして、社名を、その当時、解体される前は住友土地工務所という名前で活動をしておりました。終戦を迎えた後、日本建設産業株式会社という、住友の名前を使わない会社になりまして、その後、復員されて来られる住友の元の従業員を雇い入れるためにはどうするんだと。これはその当時のマネジメントが悩みまして、商事活動を始めようと。実は住友においては商事活動というのはご法度でございました。『浮利を追わず』と、この家訓に従って商事活動を戦争が終わるまではやってなかったと。

商事に乗り出した戦後、ご存じのとおり、サンフランシスコ講和条約を1951年に交わして、日本が主権回復すると同時に住友の名前も復活させるということで、1952年、住友商事株式会社ということになりました。1950年に実はインドの、当時のボンベイに拠点を初めて開設して、その後、一步一步、業容を拡大する中で、住友商事も総合商社としての目鼻を付けていくと、こういってございまして。戦後復興、日本の高度経済成長、あらゆる技術革新の下で日本国そのものが発展していく、その大きなフォローアップの中で住友商事も発展していくと、こういう歴史でございまして。

最近は、皆さんご存じのとおり、『産業革命4.0』と。こういう技術革新の大きな波、あるいはグローバル化が進む、最近はトランプ政権に代表されるような世界のポピュリズム、その中で大きな世界の揺らぎ、その中でわれわれの経営環境も大きく変動しております。

そういった中でメガトレンドはどこにあるのかということをしつかり住友商事の経営陣としても見据えながら、今後、住友商事がどのように変わっていくのかと。これを毎日のように考えながら、ただ考えるだけではなくて実際に行動を起こしながら新たな住友商事を築こうということでもまい進している今日この頃でございます。その中でも、やはり常に、一番、画面の下にございます、住友の事業精神、あるいは住友商事の経営理念、これについては変えることなく、迷うことなく、常に立ち戻ろうと。これを堅持しながらわれわれは取り組んで行こうと。これからの100年をこの根本的な精神を大事にしながら歩んでいこうと、こういうことで決意を固めております。

実はそういった中で住友商事も今、全世界連結ベースで7万人近い、正確に申し上げますと6万6,000名程度でしょうか。連結ベースで従業員の皆さんがおります。住友の事業精神を全員で共有したいと。あるいは事業会社群がございます。それぞれ、事業会社、事業精神もありますし、それぞれのコーポレートミッションも抱えておりますので、押し付けるという形ではなくて、われわれのオリジンをいま一度さかのぼってみて、われわれっていうのは今日、何を大事にしながら生きているのかと。企業活動をしているのか。これから先、われわれはどういうことを考えながら仕事に、あるいは事業に取り組んでいくのかと。これを考えようということを実は2年前から全世界、われわれの仲間、3,000数百名、延べ数ですけども、巻き込んで、参加してもらって、いろいろ議論をして、じゃあ、シンプルな言葉でわれわれ自身の在り方を語るとすればどういう言葉がふさわしいのか、これを考えてまいりました。

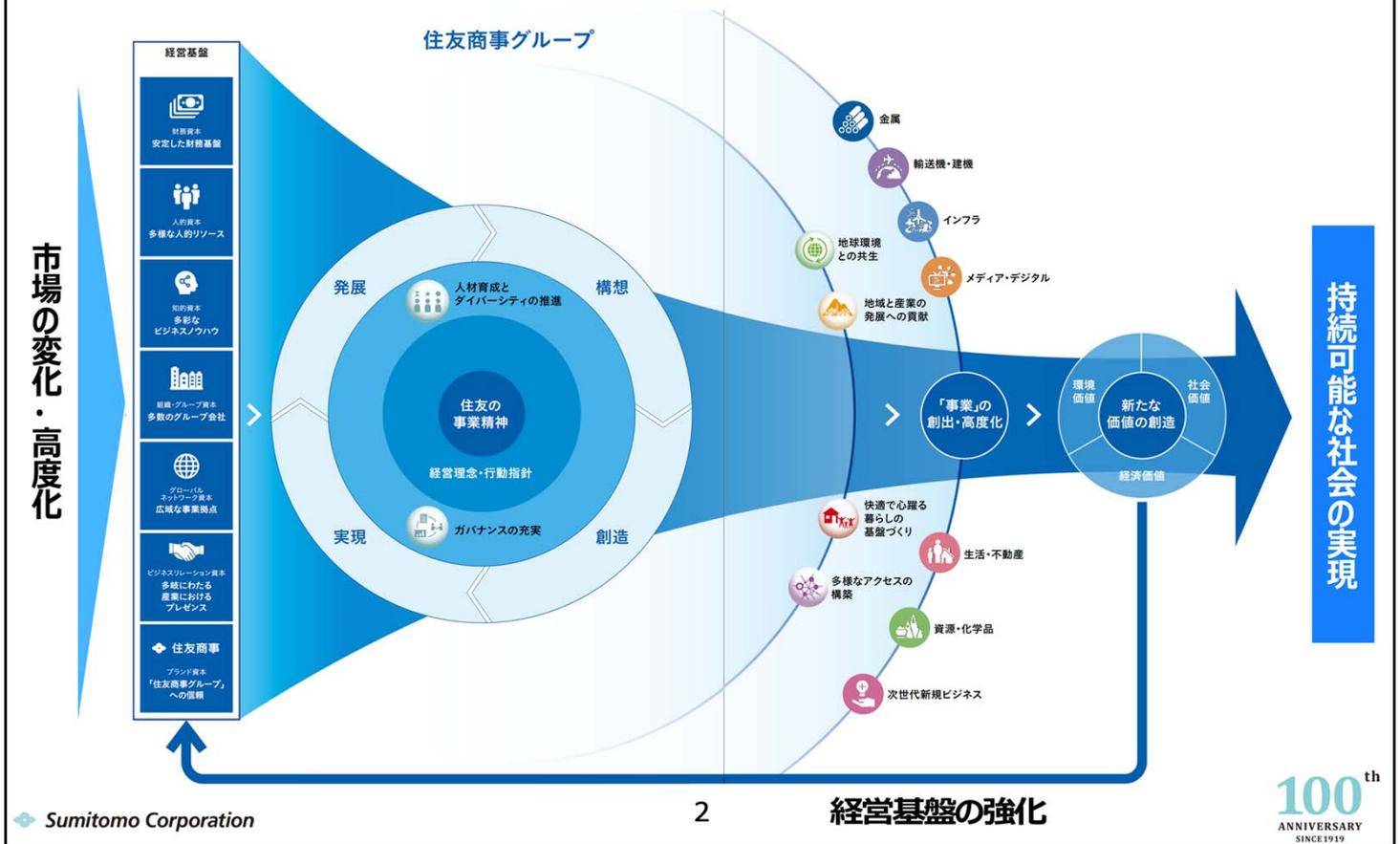
Enriching lives and the world

今日、実は初めて公に発表するんですが、コーポレートメッセージ、これをみんなで作り上げました。

どんな言葉か。『Enriching lives and the world』。

これはマネジメント、住友商事の今の経営会議メンバーがつくったメッセージではありませんで、世界中の国々に展開しているわれわれの仲間が集まって、住友商事の活動、これからの住友商事はどういうことをやっていくのかと。これを一つのシンプルな言葉に表したものでございます。

これから一步一步、この言葉を胸に秘めながら、かつ、実際の事業活動においてもこの言葉に込められた思い、あるいはエッセンスを実行していこうということでこれからも頑張っていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。



どういふにしてわれわれの事業を展開していくのかということなんですけども、2018年の統合報告書の最初のほうに載っているわれわれの事業モデル、住友商事という総合商社の事業が価値を創造していくときにどういった考え方に基づいて価値を創造していくのかと。これを1枚の絵にまとめた図でございます。

左側に100年をかけて培ってきたわれわれの資本。

われわれ自身、七つの資本というふうに呼んでいるんですけども、これがございます。

例えば今、ここにいらっしゃいますステークホルダーの皆様、

お取引先の皆様との非常に貴重な、目に見えませんが大切な資産を持っている。

全世界に張り巡らしているわれわれのネットワーク、顧客基盤、こういったものがございます。

あるいは、今、財務健全性を支えているわれわれのファイナンシャルストレンクス、

こういうものがございます。

これをわれわれの力の源泉として使いながら、われわれの体の細胞がDNAを核として持っているように、住友の事業精神、あるいは住友商事の経営理念、こういったものをコアとして大切に守りながら、その資本を使ってわれわれの今の事業部門、六つに分かれていますけども、その事業を展開していこうと。その中で新たな価値を毎日のようにつくりながら、社会に対して社会価値、経済価値、環境価値、これを生み出していこうと。こういう総合的な価値をつくり上げていこうと。

その結果として、われわれとして次の投資を行っていく力、これは人材というものとファイナンシャルストレンクス、

すなわち資金というものをそこでいただきながら正のサイクルを回していこうと。

これが住友商事が考えている事業モデルでございます。

第1部

社外取締役によるパネルディスカッション
テーマ “ガバナンス”

第2部

事業部門説明
(メディア・デジタル事業部門／生活・不動産事業部門)



金属事業部門



輸送機・建機事業部門



インフラ事業部門



メディア・デジタル事業部門



生活・不動産事業部門



資源・化学品事業部門



今日はお伝えしたいことは大きく二つございます。

第1部では社外取締役でいらっしゃいます江原さん、それと岩田さんにパネリストとして参加していただいた上で、住友商事の今のガバナンスがどういう形で実際に実践されているのか。取締役会での状況等も生の声でご紹介しながら、住友商事がどういうガバナンスを目指しているのかということをもまずご理解いただきたいと、このように思います。

第2部においては住友商事、ご覧の画面にあります6部門ございますけれども、右から三つ目のメディア・デジタル事業部門と生活・不動産事業部門、この二つの部門。特にこの部門の中でさらに成長を目指していくんだと。力を入れている分野についてそれぞれの部門長、南部、および安藤から詳細をご説明させていただきます。



0→1 Challenge

2018



2018年にリリースしましたわれわれの『中期経営計画2020』の2年目に既に入っておりまして、次の100年に向けた歩みを既に始めました。

この新しい時代に今の若い社員から、より価値の創造に向けた大きな夢、あるいはエネルギー、これを引き出すためにいろんな新しいことに取り組んでいます。
例えばこのビルの地下2階にありますMIRAI LAB PALETTEっていうスペースをオープンいたしまして、住友商事グループ内、およびお取引先も含めた外のいろんなプレイヤーとの化学反応を期待するラボというスペースをオープンいたしまして、毎日、いろんな人にそこに集まってもらってイノベーションを起こそうと、
こういう取り組みをやったり、あるいはグループ内、これは全世界、グローバルベースですけども、『0→1チャレンジ』という企業内起業制度、これを昨年から運用を始めまして、昨年については八つのアイデアが最終コンテストに残って、今、具体的な起業に向けた検討を進めていると、こんな状況がございます。

こういったこともやりながら新しい住友商事、次の100年につながる活動を続けていきたいと、このように考えております。

最後になりますけども、『Enriching lives and the world』、これを誓いの言葉として申し上げて私の冒頭のご挨拶にさせていただきたいと思っております。

それではこれからよろしくお願いたします。ありがとうございました。

Enriching lives and the world

100th
ANNIVERSARY
SINCE 1919